

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
Tel.5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
Tel.090-2657-0300

すまいるたうん



第300号
平成26年
10月3日

釜石市唐丹とうたん小学校の子ども達に
安全なグラウンドを
チャリティコンサート開催

「荒波ときに寄るとも

不屈の心ゆるぎなし」

これは、荒川区の友好交流都市である岩手県釜石市唐丹小学校の校歌の一文です。津波災害を乗り越えようという地域の人々の意志が盛り込まれた歌詞です。

今年6月、震災発生時に卒業式の練習中で使用されていたピアノがボランティアの方々によって修復されて、唐丹小学校に戻り、この校歌が演奏されました。

「愛の反対は憎しみではない。無関心だ。」
マザー・テレサ

東日本大震災から3年半が過ぎました。被災地に関する情報や報道はほとんどなくなり、その記憶も風化しつつあります。また、被災地に対する関心も薄れていつている気がします。

唐丹小学校は、震災前まで唐丹湾に面した海岸のすぐ近くにありました。

唐丹地区は、明治29年と昭和8年の大津波で甚大な被害を蒙った経験から海岸には高さ12mの防潮堤が築かれています。

2011年3月11日午後3時22分、20mを越す津波はこの防潮堤を越え、三階建て校舎の天井まで達し、校舎は全壊しました。地震が起きてから津波が来るまでの36分間に、児童は全員避難して無事でした。しかし、唐丹小の児童の家の大半は被災し、まだプレハブの仮設住宅での生活をしています。

児童たちは被災の翌月から近隣の小学校に教室を間借りし、翌年1月からは高台にある唐丹中学校のグラウンドに建てられた仮設校舎に移って学んでいます。

唐丹中学校のグラウンドは仮設校舎があるので、唐丹小の児童・唐丹中の生徒は使用できません。

被災した唐丹小学校のグラウンドを整地をして子ども達が使用できるように荒川区など多くのボランティアの方々が増し、がれきやジャリの撤去をしました。土を入れての整地では、予算の関係で8cm土を入れる予定が4cmの土盛になってしまいました。

そのために、子どもたちが大好きな野球をするのに思い切り走りたりすることができません。土盛が足りないのです、石が出てしまうのです。



「あと4cmの土盛と芝の育成を応援したい。」

「釜石の復興状況の見学と交流の旅」に参加された方々から声があがり、チャ

リティコンサートを開くことになりました。収益金は土芝プロジェクト募金になります。

荒川区在住の三浦鯉登さんと中村遼さんの二人のシンガーソングライターと野口ちよ子さん（ピアノ）・桜木弘子さん（バイオリン）・浅の芳明さん（ギター）がゲストで参加されます。当日は唐丹小の子ども達の写真展示や映像も流れます。唐丹の子どもたちが伸び伸びスポーツができるように応援して頂けませんか。復興は遅々たる歩みです。被災地に関心を持ち、寄り添い忘れないこと・・・わたしたちにできることは

これからも まだまだあります。

釜石唐丹小グラウンド土芝応援プロジェクト

☆チャリティコンサート

10月9日（木）18時開場

18時30分～20時15分

サンパール荒川小ホール

チャリティチケット

おとな2000円 中高生1000円（当日券有り）

※小学生以下、障がい者の介助者無料

◆チケット販売 荒川区社会福祉協議会

荒川ボランティアセンター

南千住1-13-20（イトーヨーカドー前）

☎ (3802) 3338
fax (3802) 3831

